

若手研究者コラムリレー

陳 洋明 (ちん ようめい)



プロフィール

大阪体育大学教育学部 講師
日本体育学会の専門領域: 体育科教育学

東京都生まれ
2009年 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科 卒業
2011年 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 博士前期課程 修了
2011年～2015年 国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科 教務助手
2015年より現職
2017年 博士(体育科学)取得(国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科)
専門競技 陸上競技(走り幅跳び/三段跳び)
E-mail: y-chin@ouhs.ac.jp



大学内で実施した「かけっこ教室」後にゼミ生と(2列目右端が筆者)

わたしの研究

子どもたちに陸上運動の楽しさを十分に味わわせたい

陸上運動における「走る」「跳ぶ」「投げる」という単調な動きをいかに効率良く子どもたち(小学生)に身につけさせるか、どのような方法を取れば子どもたちが意欲的に陸上運動の学習に取り組めるかを日々探究しています。

陸上運動の授業では、記録を伸ばすために、それぞれの種目に応じた適切な技術を身につける(動きづくり)が欠かせません。例えば小学校高学年の走り幅跳びでは、「リズムカルな助走から踏み切って跳ぶ」ことが指導内容として示されていますが、「リズムカルな助走」をどのように子どもたちに身につけさせれば良いのか。これが私の研究の出発点でした。ただ単に一定の距離から助走させても、「助走が合わない」「逆足で踏み切った」「スピードが乗らない」といった課題が出てきます。その課題に対応すべく「リズムアップ幅跳び」(9歩、11歩、13歩など歩数を決めて助走し、最後の5歩でリズムアップする教材)を開発し、小学校5、6年生に実践しました。その結果、跳躍距離の向上や技能の伸びが大きくみられ、リズムアップ助走を身につけることが有効であることが明らかになりました。この走り幅跳びの研究を起点に、短距離走や投運動などの他種目においても児童の実態を考慮した教材の開発および実践を行ってきました。

近年では、運動が苦手な子でも陸上運動を楽しめるように、「個に応じた目標記録の設定」(個人の身長や運動能力などに応じて目標を決める)に関わる様々な方法を走り幅跳びや走り高跳びを対象に検討しています。運動能力関係なく、子どもたちが楽しく学べる陸上運動の授業を模索している最中です。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

必読

陳洋明・池田延行・藤田育郎(2012)小学校高学年の走り幅跳び授業における指導内容の検討ーリズムアップ助走に着目した教材を通してー。スポーツ教育学研究32(1):1-17.

(なんでも帳)

私は、小・中・高・大と陸上競技一筋で生きてきました。現役時代は、走り幅跳びや三段跳びといった跳躍種目に取り組んでいました(競技成績は大したことはありません)。現在は大学の業務の傍ら、地域の小学校で陸上運動の出前授業をしたり、大学内で「かけっこ教室」を開いたり、「支える」スポーツとして陸上に関わっています。また、定期的に学校現場の先生方を対象とした教員研修等を通して、子どもたちに陸上をどのように指導すればよいかについて伝えています。

陸上運動は、学校教育活動の多くの場面(体育授業、運動会、スポーツテスト、陸上大会など)で出くわすものなので、学生にも授業を通して「大学時代に陸上の指導力を少しでも身につけるように！」と口酸っぱく言っております。最近ではゼミ生と小学生でも理解できる「陸上運動のポイント」に関するリーフレットや子どもの体力アップに向けた事例集の作成などに取り組んでいます。

まだまだ研究者としては未熟ではありますが、今こうしてアクティブに教育・研究に励むことができる環境に感謝し、これからも邁進していきたいと思います。



走り高跳びの教材研究の様子(ゼミ時間)

○次回のコラムリレーは駿河台大学の「朴週鳳」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました!

→メールリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5a2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メールリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

